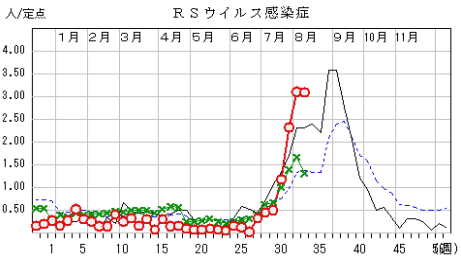
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2019年第33週　　2019年8月12日（月）～2019年8月18日（日）

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

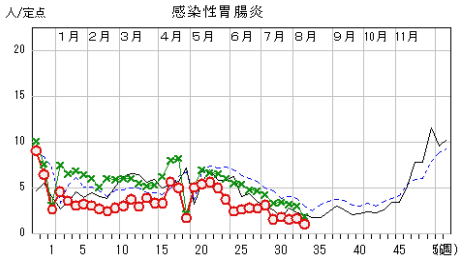
（１）　ＲＳウイルス感染症

第33週の報告数は136人で、前週より6人多く、 定点当たりの報告数は3.09であった。
年齢別では、１歳未満（55人）、1歳（53人）、２歳（15人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（6.67）、県南保健所（6.00）、佐世保市保健所（5.00）であった。



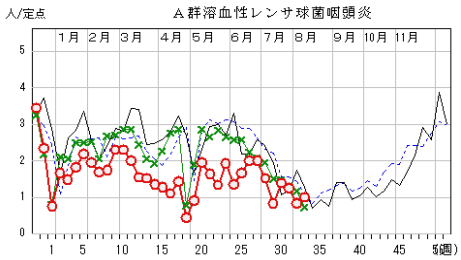
（２）　感染性胃腸炎

第33週の報告数は46人で、前週より25人少なく、 定点当たりの報告数は1.05であった。
年齢別では、３歳（11人）、１歳未満（7人）、４歳（7人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（4.00）、上五島保健所（4.00）、佐世保市保健所（1.33）であった。



（３）　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第33週の報告数は44人で、前週より9人多く、 定点当たりの報告数は1.00であった。
年齢別では、10～14歳（9人）、４歳（8人）、６歳（6人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（3.67）、県南保健所（1.40）であった。



当年(長崎県)　前年(長崎県)
当年(全国)　前年(全国)

☆上位３疾患の概要

【RSウイルス感染症】
第33週の報告数は、前週より6人増加して136人となり、定点当たりの報告数は3.09でした。地区別にみると、壱岐地区、上五島地区、対馬地区以外から報告があがっており、県央地区（6.67）、県南地区（6.00）、佐世保地区（5.00）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況で、今後の動向に注意が必要です。
RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるよう心がけましょう。

【感染性胃腸炎】
第33週の報告数は、前週より25人減少して46人となり、定点当たりの報告数は1.05でした。地区別にみると、壱岐地区以外から報告があがっており、県北地区（4.00）、上五島地区（4.00)、佐世保地区（1.33)の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況で、今後の動向に注意が必要です。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第33週の報告数は、前週より9人増加して44人で、定点当たりの報告数は1.00でした。地区別にみると、西彼地区以外から報告があがっており、県北地区（3.67）、県南地区（1.40）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況で、今後の動向に注意が必要です。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：夏休みにおける海外旅行では感染症に注意しましょう！

例年7月以降、夏休みを利用して、多くの方が海外へ渡航されます。海外では、日本に存在しない感染症や日本での発生よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中に感染症にかからないようにするためには、感染症に対する正しい知識と予防法を身に付けることが大切です。事前に、海外で注意すべき感染症とその予防策を確認しましょう。

（参考）厚生労働省HP　感染症情報　海外へ渡航される皆様へ（外部のページに移動します）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

（参考）厚生労働省検疫所HP　FORTH（外部のページに移動します）
https://www.forth.go.jp/news/20190409.html

☆トピックス：マダニやツツガムシの活動な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。
マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のとおりつつが虫病を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期ですので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。　また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。
（参考）長崎県医療政策課　ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」
https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/
（参考）国立感染症研究所　昆虫医科学部ホームページ「マダニ対策、今できること」
http://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/170511madanitaisaku.pdf
（参考）厚生労働省　重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

◆全数届出の感染症

1類感染症：報告なし

2類感染症: 結核　無症状病原体保有者　男性（80代以上・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：報告なし

5類感染症（全数把握対象）：報告なし

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第28～33週、7/8～8/18）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	28週	29週	30週	31週	32週	33週
	7/8～	7/15～	7/22～	7/29～	8/5～	8/12～
インフルエンザ	0.10	0.27	0.19	0.04	0.03	0.06
ＲＳウイルス感染症	0.45	0.50	1.18	2.32	3.10	3.09
咽頭結膜熱	0.39	0.07	0.14	0.25	0.19	0.25
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.52	0.84	1.39	1.25	0.83	1.00
感染性胃腸炎	3.11	1.59	1.84	1.59	1.69	1.05
水痘	0.36	0.27	0.27	0.27	0.19	0.05
手足口病	8.07	4.89	3.89	1.95	1.43	0.82
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.50	1.05	0.93	0.98	1.05	0.64
突発性発しん	0.52	0.25	0.30	0.32	0.57	0.34
ヘルパンギーナ	1.18	0.91	0.91	0.80	0.71	0.41
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.14	0.07	0.02	0.11	0.02	0.14
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	0.13	0.25	0.13	0.25	0.13	0.13
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎	0.08		0.08	0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.08		0.25	0.17
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.17	0.08		0.08		0.08

（2）　疾病別・保健所管内別発生状況　　（第33週、8/12～8/18）

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.06			1.00		0.10					
ＲＳウイルス感染症	3.09	5.00	3.00		0.75	6.67	6.00	0.33	0.50		
咽頭結膜熱	0.25		0.60	1.00		0.33		0.33			
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.00	0.83	0.80	0.50		1.00	1.40	3.67	0.75	0.50	1.00
感染性胃腸炎	1.05	1.33	0.80		0.25	0.17	0.80	4.00	0.75	4.00	0.50
水痘	0.05		0.10			0.17					
手足口病	0.82	1.17	0.90	0.50	0.25	0.83	1.20	0.67	0.50		1.50
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.64	0.83	0.10			0.17	1.60	1.00	1.00		3.00
突発性発しん	0.34	1.00	0.10	0.50		0.33	0.60	0.67			
ヘルパンギーナ	0.41		0.10			1.00	0.80		1.25	0.50	0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.14	0.33	0.10	0.50			0.20	0.33			
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.13								1.00		
細菌性髄膜炎	0.08		0.33								
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎	0.17			2.00							
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08		0.33								